

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成20年10月10日(金) 5校時
児 童 4年1組(男10名, 女16名 26名)
指導者 教諭 佐々木 信幸

1 単元名 材料の選び方を考えよう

教材名 アップとルーズで伝える(中谷 日出 光村図書 下), 四年三組から発信します

2 単元の目標

- ◎対比・まとめなど, 段落相互の関係に気をつけることで内容を把握しやすくなることを知り, 読み方に生かすとともに, 伝えたいことと伝える方法について興味を持つことができる。
- ◎目的に応じて, 中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え, 文章を読むことができる。
- 取材した事柄を相手に応じて分かりやすく書いて知らせることができる。 (書 イ)
- 見出しを立てながら書くことができる。 (書 エ)
- 文章全体の中で, それぞれの段落の役割を理解することができる。 (言 オ)

3 単元の評価規準

- ◎対比・まとめなど, 段落相互の関係に気をつけることで内容を把握しやすくなることを知り, 読み方に生かすとともに, 伝えたいことと伝える方法について興味を持つようとしている。
- ◎目的に応じて, 中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え, 文章を読もうとしている。
- 取材した事柄を相手に応じて分かりやすく書いて知らせようとしている。 (書 イ)
- 見出しを立てながら書いている。 (書 エ)
- 文章全体の中でのそれぞれの段落の役割を理解しようとしている。 (言 オ)

4 単元について

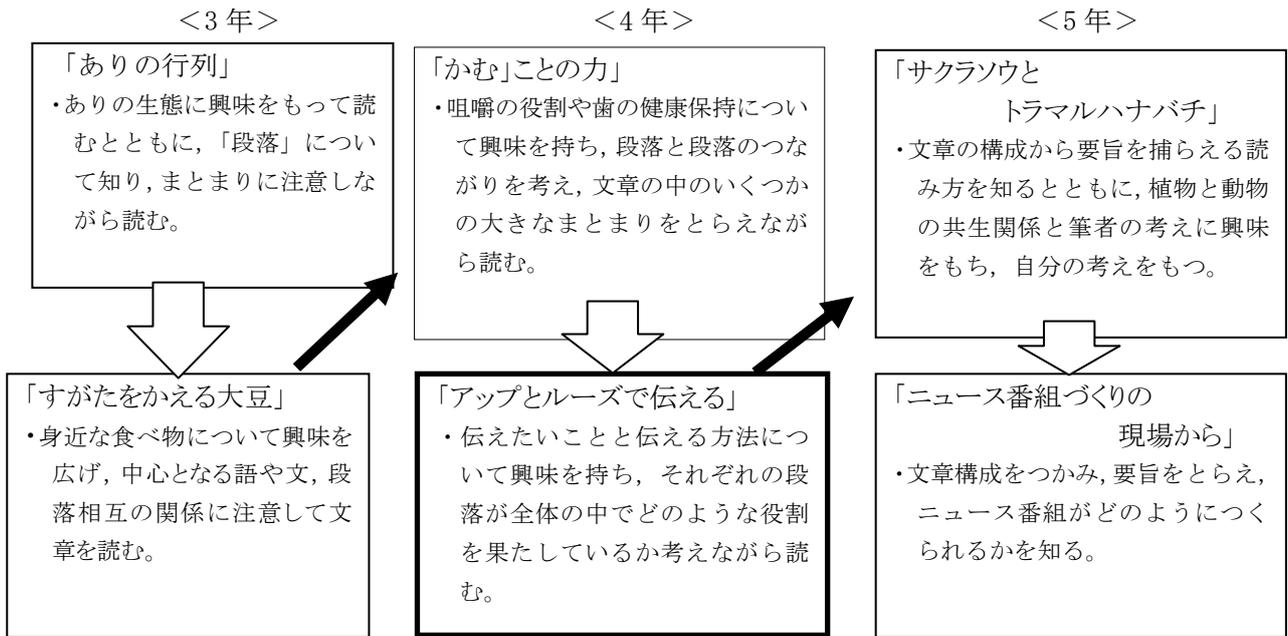
(1) 教材について

本単元に関わる小学校指導要領の目標は, 「目的に応じ, 内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに, 幅広く読書しようとする態度を育てる。」である。また内容としては, 「C読むこと(1)イ 目的に応じて, 中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え, 文章を正しく読むこと。オ 目的に応じて内容を大きくまとめたり, 必要ところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと。」とある。

本教材は, テレビや新聞などを通して私たちに届けられる映像や写真が, 送り手の意図に応じて取捨選択されたものであることを, 基本的な映像の技法である「アップ」と「ルーズ」を通して述べた説明文である。子どもたちが, 日頃からよく目にしているメディアであるテレビの映像技法を中心に述べられており, 身近に感じられる内容であると共に, 実際に確かめることも容易である。

文章全体は, 「1問題提起(形式段落①②③)」「2説明(④⑤⑥)」「3まとめ(⑦⑧)」という大きく3つのまとまりで構成されている。形式段落①と②は対比関係にあって③がそれをまとめる。④⑤⑥も同様の関係にあり, さらに1・2をうけて③がまとめる, というわかりやすい構成になっており, 段落相互の関係を考えながら読み取る教材として適材であると考えられる。第2教材「四年三組から発信します」では, 児童自らが発信者となり, 情報の収集・選択・発信を体験することになる。集めた情報の中から相手や目的に合うものを選ぶことに焦点を当て活動できるようになっている。

(2) これまでの学習との関連



(3) 児童について

児童は、4年生の「読むこと」の学習として、「かむことの手」で、形式段落ごとに要点をまとめ、段落相互の関係を考える学習を行ってきた。これらの学習を通して、児童は文章の「初め」に問題提起等、「中」に詳しい説明等、「終わり」にはまとめ等が書かれているという説明的文章の構成を概ね理解している。また、接続語に着目しながら段落相互の関係を考えようとする意識が育っている。

しかし、中心となる語や文を的確にとらえて読める児童は少なく、段落の要点を自力でまとめることも難しい。段落相互の関係についても、接続語や指示語を手がかりにしようとしているが、使われ方が理解できなかったり、指し示す内容が読み取れなかったりして、段落のつながりを理解することができない児童がおり、個人の能力には差が見られる。

(4) 指導にあたって（仮説との関わり）

児童の個人差に配慮して、単元導入前で10分間ドリルを活用して既習事項の確認をし、既習を生かしながら学習を進められるようにする。本単元は複合単元になっており、説明文「アップとルーズで伝える」で、テレビや新聞などを通して私たちに届けられる映像や写真が、送り手の目的や意図によって取捨選択されたものであることを、基本的な映像の技法である「アップ」と「ルーズ」を通して考え、「四年三組から発信します」では、自らが情報の発信者となって情報収集、選択、発信を体験させる。

そこで、研究主題である「確かに読む力」を育てるために、研究仮説1と研究仮説2に関わって以下の手立てを行う。

【研究仮説1 「読むこと」の学習指導過程に確かに読むための「書く活動」を取り入れる。】

ア 全文を通して、学習課題を解決するための重要語句「アップ」と「ルーズ」の言葉を丸で囲むこと。

イ 学習課題に関係のある文にサイドラインを引くこと。

ウ 自分なりに課題に対する答えをまとめて書くこと。

【研究仮説2 「読むこと」に関わる学習技能を身につけさせる活動を工夫する】

ア 指示語の指し示す内容について指導する。

イ 対比して読むことができるように、「アップ」「ルーズ」といった観点別にまとめる方法を指導する。

ウ 難語句については、くり返し指導する。

5 単元の指導と評価の計画（17時間）

段階	時間	主な学習活動	具体的評価規準 (おおむね満足している)	努力を要する児童への 支援
つかむ	1	○単元名とリード文から学習の内容を知る。 ○教材文を通読し、初発の感想をもつ。 ○漢字と語句の学習をする。	○題名や内容に興味をもち、文章全体を読もうとしている。 ○内容の大体をつかみ、初発の感想をもっている。	○「アップ」の写真、「ルーズ」の写真に着目し、写真から分かることをつかませる。
	2	○大まかな文章構成をとらえる。 ○学習のねらいを知り、学習計画を立てる。	○全文を大きく3つに分けられることがわかる。	○説明的文章では、「始め」「中」「終わり」に分けられることを想起させる。
ふかめる	3	○形式段落①②から、アップとルーズの画面の特徴を読み取る。 ○形式段落①②と③の関係を読み取る。	○写真と文章の関係を理解し、「アップ」と「ルーズ」の意味を理解している。	○写真と対応させながら文章を読み、「アップ」と「ルーズ」という言葉の意味をとらえさせる。
	4 本 時	○形式段落④⑤から、アップとルーズの違いを読み取っている。 ○形式段落④⑤と⑥の関係を読み取る。	○「アップ」と「ルーズ」ではどんな違いがあるのか中心文を落とさずに書きまとめ、段落相互の関係を理解している。	○写真と文章を対応させたり、指示語に着目したりして、「アップ」と「ルーズ」という言葉の意味をとらえさせる。
	5	○⑦、⑧段落を読み、筆者の伝えたいことをとらえる。	○アップとルーズが目的に応じて使い分けられていることを読み取っている。	○写真などの具体物に戻って目的について考えさせる。
まとめる	6	○各段落に小見出しをつけ、さらに段落のまとまりを考えて大見出しをつける。	○段落相互の関係を理解し、文章全体の構成をつかんでいる。	○指示語に着目させたり、投げかけの文の挿入させたりして、段落のまとまりをつかませる。
	7	○文章の構成や表現の特徴について考える。	○筆者が読み手にわかりやすく伝えるために工夫している文章の特徴について考え、指摘している。	○指示語や接続語、文末表現などに着目し、文章の書き方について考えさせる。
ひろげる	8	○「四年三組から発信します」を読み、学習の見通しを持つ。	○「相手が知りたいことは何か」を考えながら、学習に見通しをもっている。	○「新聞記者になろう」の学習を振り返り、学習計画を立てさせる。
	9	○教科書作例の工夫について話し合う。		
	10	○発信する内容について取材をする。	○「事実を正確に伝える」という姿勢をもって、取材をしている。	○「選んで伝える」から、少し多めに取材するようにさせる。
	11	○「選んで伝える」を参考にして、集めた材料を整理して選材する。		
	12	○構成を考え、組み立て表を作る。	○送り手の意図をはっきりさせながら、下書きをする。	○友だちに読んでもらい、チェックしてもらいながら進めさせる。
13	○組み立て表を基に、下書きをする。			
14	○見出しや割り付けを工夫したり、推敲したりする。	・見出しや割り付けをくふうし、推敲している。	・何度も読み返し、表現の間違いがないか確認させる。	
15	○清書をし、仕上げる。			
16	○作品を掲示し、感想を伝え合ったり、お互いのよさを交流したりする。	・作品を読んで、友だちのよさに気づいて交流している。	・コラム「選んで伝える」を読み、振り返りさせる。	
17				

6 本時の展開（4／17）

（1）目標

○段落と段落との関係や接続語、指示語に着目し、アップとルーズには伝えられることと伝えられないことがあることを読み取ることができる。

（2）具体の評価規準

	A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する児童への手立て
読む ここ	「アップ」と「ルーズ」ではどんな違いがあるのか中心文を落とさずに的確に書きまとめ、段落相互の関係を理解している。	「アップ」と「ルーズ」ではどんな違いがあるのか中心文を落とさずに書きまとめ、段落相互の関係を理解している。	写真と文章を対応させたり、指示語に着目したりして、「アップ」と「ルーズ」という言葉の意味をとらえさせる。

（3）本時の指導における仮説との関連

<仮説1に関わって>

ア アップとルーズの違いを読み取るために、学習課題に関係ある文にサイドラインを引き、表にまとめること。

イ 課題に対する答えをまとめて書くこと。

<仮説2に関わって>

ア 学習技能として、接続語の役割と指示語の指し示す内容を確実に読み取らせるように指導する。

(4) 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点 (・) 評価の観点 (◎)
つかむ 5分	1 前時の学習内容を想起する。 2 学習課題を把握する。 アップとルーズでは、どんなちが いがあるのか読み取ろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に読み取った「アップとルーズの意味」と問題提示の文を掲示物から確認させる。 ・前時までの学習の他に、「アップ」と「ルーズ」にはどんな違いがあるかを、本時は読み取ることを確認する。
ふかめる 30分	3 学習課題を解決する。 (1) 課題解決の見とおし ①学習範囲(形式段落④⑤⑥)を音読する。 (2) 課題解決のための読み取り ①アップでとると分かることと分からないことを読み取る。 ・分かることと分からないことの文にサイドラインを引く。 ・発表しあい、表にまとめる。 【仮説1 ア】 ②ルーズでとると分かることと分からないことを読み取る。 【仮説1 ア】 ③ ④⑤段落と⑥段落の関係を読み取る。 【仮説2 ア】	<ul style="list-style-type: none"> ・分かる、分かりませんという言葉に注意して読む(聞く)ことを確認する。 ・音読は2回行う。1回目は、一斉読み、2回目は、指名読みをさせる。 ・文末の「分かります」「分かりません」という文末表現に着目させ、表にまとめさせる。 ・「しかし」という接続語に着目させる。文の前後に分かることと分からないことが書いてあることに気づかせるために既習事項の掲示で確認する。 ・各自がサイドラインを引いたことを発表しあい、写真と照らし合わせて確認させる。 ・④で学習したこと方法を使って、表にまとめることを通して、ルーズでとると分かることと分からないことを読み取るようにさせる。 ・「でも」という接続語に着目させる。「しかし」と同様にする。 ・各自が読み取ったことを発表しあい、写真と読み取った内容を照らし合わせて確認させる。 ◎アップでとると分かること、分からないことにサイドラインを引いて表にまとめられたか。 (教科書、学習シート) ・「このように」という指示語がまとめる役割を果たすことを確認し、形式段落⑥が汎式段落④⑤をまとめ、指していることをとらえることができるようにする。 ・形式段落⑥の「伝えられること」「伝えられないこと」は、形式段落④⑤の「分かること」「分からないこと」であることを説明する。
まとめる 10分	4 学習のまとめをする。 (1) アップとルーズの違いをまとめる。 【仮説1 イ】 アップでは、細かい部分の様子はわかるが、うっさされていない多くの部分は分からない。ルーズでは、広いはんいの様子は分かるが、細かい部分の様子は分からない。 アップとルーズには、伝えられることと伝えられないことがある。 (2) 自己評価をする。 5 次時の予告をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの書き出しを提示することで、中心段落だけでなく、説明も加えながら書きまとめられることができるようにする。 ◎アップとルーズのそれぞれの長所・短所が述べられていることを読み取っているか。(学習シート) ・自己評価を加えた感想(今日学んだことからの自分の考え)を書かせる。 ・⑦⑧段落について学習することを伝える。

(5) 板書計画

アップとルーズで伝える

アップとルーズでは、どんな違いがあるのか読み取ろう。

⑤	④	
ルーズ 写真	アップ 写真	分かること
広いはんいの様子 ○おうえん席 ○選手たち	細かい部分の様子 ○ゴールを決めた選手	分からないこと
細かい部分の様子 ○各選手の顔つきや視線 ○各選手の気持ち	うつされていない多くの部分 ○ゴールを決められたち ○おうえん席	

⑥ このように伝えられること 伝えられないこと

(まとめ)

目的に応じて

でも

アップでは、細かい部分の様子は分かるが、うつされていない多くの部分は分からない。

ルーズでは、広いはんいの様子は分かるが、細かい部分の様子は分からない。

アップとルーズには、伝えられることと伝えられないことがある。